



会場を埋め尽くす300人以上が参加して厚労省との懇談は行なわれました。マイクを持ち発言する東京2陣原告共同代表の吉田さん

建設アスベスト 非情な態度に怒り 関係3省と懇談3時間超

11月11日の福岡高裁勝利判決を受け、首都圏建設アスベスト統一本部、原告、弁護団は翌日から、九州の仲間も加わるなかで連日のように関係省庁、被告企業への要請、抗議の行動を行いました。11月21日には院内での報告集会と被害の根絶とばく露防止を考える関係省庁との懇談会を300人以上を集めて開きました。

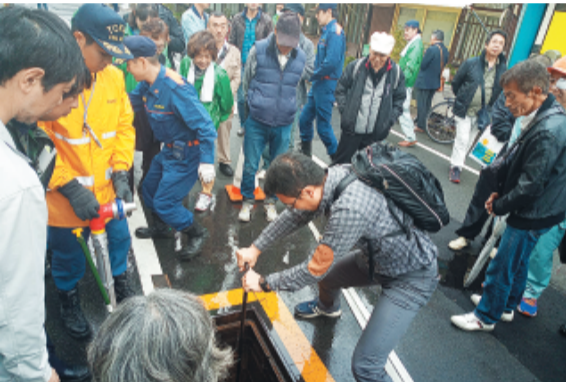
11月21日は衆議院第1議員会館で、午前中に福岡高裁判決報告集会を行なった後、午後からは厚労省、国交省、環境省の課長補佐、係長クラスの職員の出席で懇談会を実施しました。懇談会の実現には、近藤昭一衆議院議員(立民)の尽力がありました。3省庁とは、福岡判決後に各省庁を統一本部の幹部、原告、弁護士団が訪れ要請してきました。懇談会では、原告代表が被害の深刻な実態を述べた上で、事前に各省庁に渡した要望書への回答を受けました。

最初の厚労省は「建設業に集中するアスベスト労災認定に対してその原因の認識」今後「見解」について、今後のばく露防止対策や建材への含有が多かったことを繰り返すばかりで、この間の要請時の回答から何らの進展はありません。参加者から「過去の原因についての認識を聞いているのだ。はぐらかすな。厚労省が万全の対策を講じていればこのような被害はなかったはずだ」「建設はかつての泉南アスベストとは違い被害の広がりははかりしれない。それを踏まえ解決策を考えるのが国民の命を守る厚労省の使命だ」など激しい追及がありました。しかし厚労省は「係争中なのでコメントは控える」「現行制度の範囲内で対応する」と述べるのみで、参加者から怒りの声がありました。国交省、環境省も同様の答弁に終始しました。

こんな国には負けない

「係争中なのでコメントは控える」「現行制度の範囲内で対応する」と述べるのみで、参加者から怒りの声がありました。国交省、環境省も同様の答弁に終始しました。

まちの救助隊ナマズ 京島地域等で研修



スタンドパイプ訓練

【本部・書記・高倉一歩記】11月24日、墨田区京島地域にて「まちの救助隊ナマズ全体会議」を開催。20支部、69人が参加しました。午前中はまちづくり「コミュニティ」広場で町会と消防署、墨田支部ハンマースが連携して開催している「京島2丁目防災フェス」に参加。スタンドパイプ訓練、土のう作り等を体験。スタンドパイプは、消火器具で道路上にある消火栓や排水栓に差し込みホ-

スをつなぎ消火します。墨田支部に移動し、ハンマースの村山副隊長を講師に学習。ハンマースでは東日本大震災での経験から、「生き残るための防災対策」を最優先として、その実践としてイベント型の防災訓練など地域のコミュニティ作り(近助の力)に力を入れ、地元建設業者はその担い手であること等を学びました。参加者からは「町会、消防との共同の取り組みは参考になった」など意見が寄せられました。

島原孝副委員長の開会あいさつの後に、平川正浩厚生労働省人材開発統括官海外人材育成担当参事官室技能実習業務指導室長の「外国人労働者の適正な雇用」外国人技能実習制度について、関根大樹圏友協同組合(監理団体)事業推進本部職員の「外国人労働者の適正な採用と雇用のために」外国人技能実習生受入れ事業」という2つの講演がありました。

講演後、参加者からは「今後、月給制に聞いたが金額の深い東京サロシンプォニーオーケストラが会場を盛り上げました。『歌姫と3大テノールの祝宴』と題した演奏はアンコールがおこるほどの大盛況。最後に在籍表彰者が登壇し、参加者全員が団結ファンパレード、これからも仲間とつながる、地域とつながる、技能をつなぐ、東京土建として役割を果たし、力を尽くそうと心を一つにしました。

東京大集会」が開かれ、2000人(東京土建は2722人)の市民が参加しました。主催者を代表してあいさつした荻原淳東京地評議長は「横田基地にCV22オスプレイが配備されて2年目になる。度重なる低空飛行訓練を繰り返し、住民の命と健康、安全を脅かしている。CV22の配備で日本をアメリカの侵略の出発拠点にしようとしている。絶対に許せない。即時撤去を求める。危険な訓練を黙認する小池都政は変えるしかない」と怒りを込めて訴えました。



平川さん



関根さん

外国人雇用セミナー開催 適性なあり方学ぼう

少子高齢化の進行で、労働力不足が深刻になっている日本社会。建設業でも外国人労働者を雇用する事業所が増加しています。11月22日、けんせつプラザ東京で東京土建本



18社から21人が参加

はどうかあるべきか」「実習生が規定の人数を超えていた場合の扱いはどうなるのか」「外国人雇用には経費がかかる。国は助成金の検討を」「監理団体の監理費用は団体によってどのくらい違うのか」など具体的な質問や意見が活発に出されました。終了後、参加者を中心に名刺交換を行ない、仕事などの交流をしました。



在籍30年の組合員を代表してあいさつした市瀬さん(右)

【練馬・書記・田崎遊記】11月27日、東京土建練馬支部の60周年式典・祝賀会がコネリホールで開催されました。在籍表

彰者や分会代表など106人が参加した第1部の式典では、練馬区長からもお祝いのメッセージが寄せられた記念誌「練馬支部60年の歩み」をもとに池田書記長が60年の歴史を紹介。練馬支部の運動を進めてきた在籍50年23人と在籍30年230人の組合員を表彰し、50年を代表して土支田分会の田谷勝雄さん、30年を代表して富士見台分会の市瀬正樹さんよりあいさつをいただきました。第2部の祝賀会は、練馬区や国会議員、都議、区議、区内の労働団体、友好団体等から大盛況。

練馬 仲間・地域・技能をつなぐ 60周年盛大に祝う

最後に在籍表彰者が登壇し、参加者全員が団結ファンパレード、これからも仲間とつながる、地域とつながる、技能をつなぐ、東京土建として役割を果たし、力を尽くそうと心を一つにしました。